

会 議 録

会議の名称	西東京市介護保険運営協議会第2回会議
開催日時	令和5年7月27日（木曜日） 午後7時から午後7時55分まで
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎4階会議室
出席者	（出席委員） 梶川副委員長、中山委員、浅野委員、伊集院委員、伊藤委員、内田（美）委員、横山委員、尾林委員、小柳委員、篠宮委員、小口委員、新井委員、内田（孝）委員、齋藤委員 （欠席委員） 渡邊委員、瀬ノ田委員、富樫委員 （事務局） ささえあい・健康づくり担当部長、介護保険担当課長、以下7人
議 題	（1）報告事項 ・第9期計画策定に向けた調査概要について （2）協議事項 ・西東京市版地域包括ケアシステムのイメージ（案）について
会議資料の名称	【事前送付資料】 資料1 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第9期）の策定に向けた意見聴取（令和5年度） 資料2 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第9期）の策定に向けて 西東京市の超高齢社会⇒2040年の未来 ～一緒に考えましょう！ With Life ～
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会 議 内 容
<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）報告事項</p> <p>・第9期計画策定に向けた調査概要について</p> <p>○事務局：</p> <p>第9期計画策定に向けた調査概要について、資料1、資料2に基づき説明。</p> <p>○委員：</p> <p>西東京市の要介護認定の数、高齢者の数のグラフがあったが、西東京市は要介護者が多いという読み取り方でいいか。それと要支援とか要介護に皆さんなっているが、他市にはない充実した予防サービスがあるという見方ができるか、お伺いしたい。</p>

○事務局：

1 点目は、地域包括「見える化」システムの中で、85 歳認定率が西東京市は他市に比べて高いということがわかった。実務の中でも、体感として認定を受けられる方が多いなど感じている。その認定を受けられる方が多い要因の分析としては、65 歳以上に占める 85 歳以上の割合が多いということがあり、それとつながっているものとしては、認知症との関わりとか医療、疾病の状況から認定を必要とされる人が増えているなど、様々な要因が複合的に絡み合っただけ認定率が高いとは感じている。今後 9 期計画をまとめていく上では、西東京市の認定率の高さの要因分析が重要な視点であると考えており、引き続き分析したい。

予防の部分は、他市と比較して充実しているかは分からないが、市として特に力を入れているのはフレイル予防である。東京大学と連携して、市民であるフレイルサポーターの皆さんのご協力をいただきながら、市民が支えるフレイル予防を進めている。また、介護予防としては、昨年度から「短期集中予防サービス」を試行実施して始めており、効果が認められたため、今年度から拡大して実施している。

○委員：

具体的にどんなことをやっているか説明してもらえると理解が進んでよいのではないかと。

○事務局：

今回の会議の中で、介護予防、フレイル予防についてまとめた資料を提示してわかりやすく説明させていただく。

(2) 協議事項

- ・西東京市版地域包括ケアシステムのイメージ（案）について

○事務局：

資料 2 の 9 ページ、10 ページに基づき説明。

○委員：

地域包括ケアシステムの中で、在宅医療の強化事業を進めていこうとしている。行政にも東京都から説明されているということだが、高齢者支援課でも知っているか。

○事務局：

都からの通知等について確認する。

○委員：

都から話が来ると思うが、医師会としても 24 時間の休日・夜間の往診のシステムを構築していかないといけないと考えている。

○委員：

歯科も医療の分野で治療も大切だが、口の中の普段の手入れがとても大切なので、口腔ケアということで、多職種の方々と口の中をどうやって守っていくかが検討課題になってくる。包括ケアシステムの構築を考えると、連携＝顔の見えるつながりを大切にしていかないとなかなか実現できないと思う。歯科医師会としてはいろんなことで参画していきたい。

○委員：

薬剤師も在宅医療で介護と連携は図ってきているが、薬剤師という専門家が常にカウンターで患者さんに会う組織になっているので、その部分で生活支援や介護予防という医療が必要でないような部分、健康に不安がある部分で気軽に相談に来ていただき、行政と連携できればと思う。

○委員：

治療や療養介護が必要な方に対しては、それに応える基盤や連携が大切と感じている。西東京市の認定率の高さとか、1人の給付費の費用の高さからすると財源の課題も心配である。そのために予防がとても大切なところだと思う。住まいプラス社会参加で、できるだけ市民同士のつながりを大切にすることで予防していくというのはとてもいいことだ。

○委員：

認知機能の低下した人が入ってきていて、そういった点で問題があることがあるが、その他は特に変わったことはない。

○委員：

訪問介護は人材不足ということで、今後事業所へどんな支援をしていただけるか期待している。また、訪問介護は何でも屋さんみたいなところが多いので、介護保険でできないことについてボランティア団体を増やしていただき、市民の生活を維持してあげたいので、そうしたボランティア団体があれば教えてほしい。

○委員：

地域包括ケアシステムのイメージ図が、以前は介護、医療が大きかったが、今回のイメージ図はインフォーマルサービスが協調されて盛り込まれている。そうしたところが充実して、介護保険だけではやり繰りができないことのサポートを地域としてできるようなシステムづくりが必要だ。

○委員：

西東京市は、インフォーマルサービスを含めて社会参加を活性化するような仕組みを作る

ことが必要だ。素晴らしいと感じている。

○委員：

民生委員は、フレイル予防のフレイルサポーターへの参加要請、生活支援体制として地域の見守り支援を行っている。

○委員：

社会福祉協議会では、ボランティア・市民活動センターや地域サポート「りんく」、地域福祉コーディネーター事業を運営しているが、そうしたところを繋ぎ合わせていくことで、広く市民の方が活動に参加していただけるかなと考えている。市民には生活支援コーディネーターと地域福祉コーディネーターの違いがわからない方が多いので、そうしたところも連携して取り組んでいかなければと思う。ボランティア市民活動センターも含めて、ボランティア活動の具体的運用を図っていく仕組みも考えていきたい。

○委員：

私は主婦でフレイルサポーターとして活動している。フレイルチェックは年4回市報で募集しているが最近人の集まりが悪いので、いろいろイベントを考えてフレイルチェックの参加者を増やしている。また今年からeスポーツも始めて武蔵野大学の学生さんと高齢者の社会参加を促して健康作りのための活動をしている。

○委員：

自分は主婦で、今のところは元気に生活しているが、この会に参加していると先が何となく見えて、いろんな方にお世話になるんだと感じる。今の高齢者は頑張っていて、何かしてあげようとする皆さん「大丈夫です」と遠慮がちだ。田舎だと近所とのふれあいがあるが、こちらでは地域がバラバラという感じがして、地域の助け合いができなくて遠慮してしまい、結果的にお世話になってしまうのかなという感じがする。住み慣れたところに元気で住みたいというのは皆さん共通だと思う。

○委員：

資料にある生活支援コーディネーターは、その具体的な役割とどこにいるのかをお聞きしたい。

○事務局

生活支援コーディネーターの役割は、介護予防や生活支援に関わる地域資源を把握、見つけてきたり、作ったりして、それが必要な人につなげたりするという役割がある。生活支援コーディネーターは、社会福祉協議会に委託していて、地域サポート「りんく」という組織で、市では計5人の生活支援コーディネーターを配置している。

3 その他

○事務局：

次回の会議は、10月頃を予定。次回の会議では、本日まで説明した調査の集計結果等をご協議いただく予定。

4 閉会